

第18回世界大学オリエンテーリング選手権大会報告書

松井健哉

名古屋大学

出場種目：スプリント,ミドル,リレー

1. はじめに

まず、ユニバー前にユニバーの目標やら取り組みやらを書いた報告書の書きかけのようなものを書いておいたのに、そのデータが入ったUSBメモリーを筆箱ごと行き先の飛行機に忘れてしまったので本報告書の記述で記憶に頼る箇所があることをご了承ください。

ユニバーという舞台に立ちたいという思いはわりと早い段階から持っていました。自分が4年生という立場で一つ、二つ上の先輩に競り勝ちユニバー代表を勝ち取るということはそれだけで魅力的でモチベーション向上につながりました。ユニバーに向けてNTチームのB強化指定選手にも選んでいただき、トレイン的にも慣れ親しんだ富士ということで少し楽観的な思いもあり臨んだセクションでは惨敗につぐ、惨敗で代表入りを半ばあきらめかけた中、幸運なことに最後の一人という形で代表入りが決まりました。

2. 日本での取り組み

セクションの内容やユニバー本番のスウェーデンというトレインの特性を受けてユニバーまでの取り組みとして以下のようなことを考えました。

- 1 直進・歩測の正確な技術と行う癖を身につける
- 2 アタックポイントを正確に定めることを徹底する
- 3 4月：250km 5月 200km 6月 150km 走ることを目指す

技術的な課題である① ②は結局6月半ばぐらいまで調子の上がない状態が続いたため解決したとは言い難く、体力的な課題である③は結局、4月 205km 5月 178km 6月 140kmとすべての月において目標に及ばなかった。満足のいく準備ができたとは言い難かったが東海インカレと最後の合宿でのレースにていいレースが出来たことでそれなりの自信を持って日本を発つことができた。

また、出場レースがスプリント、ミドル、リレーとスピード重視となったために、もともと距離よりはスピード重視のトレーニングを行っていたことがいきてくることも好材料であった。

3. 現地入りから本番まで

現地にはユニバーチーム内でいち早く行くことが出来た。今回、ホテルの環境はすごく良く、ベッドこそ少し小さい印象を受けるものの朝夜ビッフェ付きの生活はとても満足していくものでした。このへんで食べ過ぎないようにする工夫も必要そうです。

練習に関しては午前の部と午後の部で一日に2回トレインに行く機会があり、各自の判断で参加したり休んだりといったような形式であった。疲れすぎないように工夫して練習する必要があります。個人的にはなかなか調子があがらず不安の残したままの本番入りとなりました。

4. レースに関して

[スプリント]

目標：トップ 120%以内 結果：73位/79人 18:26 トップ比 132%

個人競技としては最もいいトップ比が望めるであろうこの競技でトップ比 120%程度を狙ったものの結果は 130%も切れずにひどいもの。それでも日本人トップタイムということで世界の厚い壁を感じた。終盤に 30 秒ほどのミスをしてしまっているが、もしそれがなくてもトップ比 130%をやっと切れる程度である。正直、思っていたより世界との差があったと言わざるを得ない結果であった。

[ミドル]

目標：トップ 130%以内 結果：101位/103人 54:17 トップ比 176%

スタートリストの段階でロングを断トツで優勝した選手の 2 分前とこれは頑張るしかないという位置。レースとしては 2 ポに向かう際にこけて負傷。その際に追いつかれて 3 ポに向かうまでに振り切られるといった展開。ただ、2→3 がかなりのロングレッグであったのでどちらにせよ、そのレッグ中に振り切られていたとは思いますが・・・。

その後も序盤から追い込んだ無理がたたったり、後半ミスを重ね残念な結果に。レース後にこけた際に打撲した左足が痛み、明日のレースに不安が残る。

[リレー]

目標：20 位以内。今後のユニバー代表の一つの目標となるレースにする。

結果：26 位/27 チーム 3:04:01 トップ比 151% (個人 58:51 トップ比 147%)

前日の怪我の影響に関してはオフィシャルの方に氷を用意していただいたり、小山さんにキネシオをいただいたりで、当日はアップしてごまかせばなんとか走れそうな状態に。

当初の話し合いの段階では 3 人がトップの 130%程度でつなげればいいところまで行けるだろうという話であった。今回は結果として想定内の走りが出来なかったのであるが、もし仮に全員が 125%程度の走りをしたとしても順位としてはあと二つ程度しかあがらな

い。ここでも、世界がどれだけ日本と離れた位置で競い合っているか思い知らされる結果となった。

個人としては大きなミスもなくまとめたつもりであったが思ったほどタイムが伸びなかった。これは前日までの疲れや怪我の影響もあったのかもしれない。

5. これからへの提言

今回、あまり調子があがらず準備として思い通りにいかない面も多々あり、結果も思うように残せなかった。しかし、ユニバーに参加したこと自体は同行者にも恵まれすごくいい思い出になった。観光に行っているわけではなく、勝負しに行っているのであるから楽しかったからいいと言うのはどうかとは思いますがあまりネガティブな話ばかりしてもしかたがないので、ユニバーはすごく楽しく参加して良かったとは思う。

とはいえ、今後日本チームがいつまでもこのままでいいとは思わない。せめて、リレーで他のチームとせれる、競い合えるぐらいにはなりたい。そのために何ができるかチームとしてのレベルアップはもちろんであるが、僕はもっとチーム全体としてリレーでベストをつくそうといった環境がほしいと思った。今回もそうであるが選手選考などは基本的に選手主導で決めていく方式である。そのこと自体は悪いとは思わないが本当に実力があり、またリレー本番において調子のいい人が走れるようなチームづくりをしていく必要があるのかなと思った。

僕自身、第1チームのようなもので走れるようになったものの直前まであまり調子があがらず、前日に足を痛めたので当日はすごく不安であった。結果としてはそれなりの結果を残せたもののベストにはほど遠い状態であったのでベストなチームが組めるような環境にしておくべきだったのかなとも思う。そのためには選手であれオフィシャルであれみんなが働きかけていかないといけない。そう思うと僕自身の力不足もあったのかもしれない。

最後になりましたが、すごく楽しい思い出を提供して下さった同行者のみなさん、手厚いサポートして下さったオフィシャルの方々、本当にありがとうございました。僕は大学院のほうに進学するためユニバーにはまだ参加することができます。後輩たちの追い上げも激しく、今後参加していけるとはかぎりませんが参加できればまた全力をつくして戦いたいです。

今後ユニバーを目指す人たちへ
海外で世界を決める大会でオリエンテーリングができる機会はすごく貴重でいい思い出になると思います。どうしようか迷っているならぜひ目指してみることを進めます。
次回の舞台はスペイン。わくわくしますね。

